

振興局調整費事業事後評価調書(平成23年度実施分)

(振興局調整費)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
福祉環境部	小松 真吾	健康・予防課	健康・予防班	藤村 高広	018-855-5170	こどもの救急医療かかりかた事業	既存の医療資源を有効かつ効果的に活用するため、保護者の適切な受診行動に必要な知識等の普及啓発を行う。	253,416	直営	1 関係者会議の開催(出席者 19名) 2 「こども救急」ワークショップ(出席者 4名) 3 小児科専門医医療機関マップ作成	県	地域住民	平成23年5月26日	関係者会議では「地域で一人ひとりの取組を促すために」をテーマに協議を行った。ワークショップでは、感染症予防対策の重要性を再認識した等の意見があった。	医療資源が限られている現状を地域の課題として住民が自覚し、それぞれの関係機関が、こどもを持つ保護者の不安を軽減し、適切な受診を促すPR活動及び住民自らが取り組める行動を促進するための方策についての検討等も継続していく必要がある。
						平成23年11月～平成24年2月							平成24年10月30日		
農林部	菊子 正稔	農業振興普及課	担い手経営班	本郷 正史	018-860-3372	食と農の連携で進める「新たな食資源 マコモダケ」特産化事業	食と農の連携による特産化を図るため、耕作放棄地再生の有望作物であるマコモダケの除草対策及び流通・販売、加工品等による高付加価値化の方向性を探る取組を支援する。	268,042	直営	1 試験圃による栽培試験を実施 ・秋田市下浜、秋田市雄和新潟県柏崎市及び長岡市への先進地視察研修を実施 ・参加者 10名	県	秋田市マコモダケ研究会会員	平成23年5月26日	・試験圃による除草試験については、高い抑草効果のある紙マルチの敷設方法(連続敷設)を確認でき、除草労力を大幅に軽減できることが分かった。 ・先進地視察については、マコモダケの生産、販売、加工品開発等の面で得るものが多く、未確立であった収穫適期の把握や出荷形態の改善等に反映された。	・需要拡大を図るため、直売所や農家レストラン等と連携した一般消費者への一層のPRが必要である。 ・ほ場条件や除草資材の有無等による収量差が大きく、また生産者・面積とも限定的であることから、特産化に向けた供給体制を整備していく必要がある。
						平成23年5月～平成23年11月							平成24年11月7日		
建設部	伊藤 雅樹	用地課	管理班	佐々木 浩喜	018-860-3452	秋田地域アダプト・ロード・プログラム事業	地域と行政とのパートナーシップによる公共施設の維持管理制度の導入・実施可能性についての調査・検討を行い、地方分権型社会において望まれる行政の新たな協働システムの構築を目指す。	113,400	直営	アダプト・ロード・プログラム実施は11団体。 確認書に基づき、作業PR看板を購入した。 今回は、22・23年度確認書締結した6社を対象とした。	県	秋印運輸(株)ほか10団体	平成23年5月26日	試行要領にある基本活動回数どおり実施されており、参加社員の積極的な姿勢も伺える。23年度末現在11社と確認書を締結し、本事業の認知度も高くなっている。	現在県がPR看板(固定)及び作業PR看板の購入とHPへのアップを実施している。今後はPR看板(固定)の予算が課題である。また、参加団体の募集方法等についても検討が必要である。
						平成23年5月～平成23年11月							平成24年10月25日		
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域振興班	二木 茂希	018-860-3313	「ニッポンの笑顔」秋田から!被災者の方々に元気を届けよう日帰りバスツアー事業	東日本大震災により県外から管内に避難している小中学生や、その保護者に笑顔を取り戻してもらうため、市内の観光地を活用したバスツアーを実施する。	87,013	直営	H23.6.11大森山動物園、ねぶり流し館を見学。竿燈の実演。参加者25名。	県	震災の影響により県外から避難している小中学生等	平成23年5月26日	本県に避難している方々に少しでも楽しんでもらえることを目的に開催した。参加した親子から「楽しめた」という声を聞くことができ、気分転換の一助になる事業であった。	東日本大震災支援事業
						平成23年6月11日							平成24年11月22日		
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域振興班	二木 茂希	018-860-3313	首都圏男鹿まるごとフェア開催事業	観光客が少なくなる冬期間の誘客促進を図るため、首都圏在住者に対し、男鹿の食や祭りなどを盛り込んだ男鹿への旅行意欲に繋がる誘客イベントを開催する。	333,942	直営	H23.12.10~11秋田県産品ショップ&ダイニング「あきた美彩館」で、男鹿の食や祭りを盛り込んだ「男鹿まるごとフェア」を開催した。	県	首都圏の住民	平成23年9月22日	観光客が少なくなる冬期間の誘客を促進するために開催したもので、美彩館を訪れる来場者に対し、美彩館まつりやハタハタなど、男鹿をまるごとPRすることができた。	地域の旬な情報を収集し、継続した情報発信に努めていく必要がある。
						平成23年12月10日～12月11日							平成24年11月22日		
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域振興班	佐藤 正美	018-860-3313	「ニッポンの笑顔」秋田から!被災市町村視察受入支援事業	東日本大震災で被災した市町村の復興に向け、大潟村が実施する岩手県及び宮城県の両県市町村職員などを対象とした視察受入事業を支援する。	200,700	直営	H23.11.18~19に宮城県多賀城市役所職員等23名の来村時にバス(往復)を借り上げた。	市町村	東日本大震災により被災した市町村職員等	平成23年9月22日	東日本大震災で被災された市町村の復興に、寄与することができた。	東日本大震災支援事業
						平成23年11月～平成24年3月							平成24年11月22日		

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域振興班	佐藤 正美	018-860-3313	八郎湖自然再生活動促進事業(映画「〜里湖 八郎湖物語〜」上映会支援事業	八郎湖の自然再生活動を広く県民に普及啓発し今後の活動の充実を図るため、八郎湖が抱えている様々な問題や「環八郎湖・水の郷創出プロジェクト」の活動が記録されたドキュメンタリー映画の上映に対して支援する。	100,000	負担金	平成23年10月21日に秋田市文化会館を会場に、昼と夜の2回行われた上映会の開催経費に対し、支援した。	県	地域住民	平成23年9月22日	八郎湖を取り巻く現在の環境問題のみならず、これまでの時代背景をはじめ、八郎湖の再生を願う活動している団体の取り組み等について、広く多くの世代に伝えることが出来た。	鑑賞後のアンケート結果をみると、「小学生に是非観てもらいたい」という声が多いほか、ふるさとを思う気持ちが深まる傾向であることがわかった。市町村等にも広くPRし、環八郎湖としてより一層連携した活動に繋げる。
						平成24年11月22日									
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域振興班	花田 綾子	018-860-3313	「ちょこっと観光」サポート事業	ビジネス、各種コンベンションなど観光以外の目的で秋田駅周辺に滞在する宿泊客に対して、短時間で効率的に観光するための情報を盛り込んだ冊子を作成(増刷)配布し、観光消費の増加を図る。	160,650	直営	秋田駅周辺の宿泊施設、観光施設17箇所へ4000部配付。配付先対象にアンケート調査を行った。	県	管内宿泊事業者、観光客	平成23年11月15日	アンケートの結果、15分、30分といった空き時間を有効に使うことができる手頃な大きさの情報冊子の需要が高いことがわかった。	アンケートにより、入館料などの詳細な情報や通常のパンフレットに掲載のないマニア向けの情報が必要とされていることが判明したので、今後のリニューアル際に参考としていく。
						平成23年12月～平成24年3月									
総務企画部	高石 稔	地域企画課	企画地域振興班	二木 茂希	018-860-3313	男鹿”元気回復”プロジェクト「ご当地グルメ・うまいものまつりin男鹿」	東日本大震災による男鹿経済の閉塞状況を回復するため、食による元気回復イベントを開催し行楽客の誘客を図る	1,500,000	委託	H23.7.2～3男鹿市文化会館駐車場を会場に、B級グルメを中心とした食による元気回復イベントを開催。来場者数6,500人(2日間計)	県	地域住民	平成23年5月13日	集客を期待できるB級グルメを核とした食のイベントであり、お客様の中には秋田市を中心に県南・県北から訪れたお客様もいたことから、男鹿地域の食と同時に観光施設もPRできた。	気軽にしかけてみようかとスイッチを押させる取組が必要であるので、ターゲットや目玉を工夫しながら情報を発信していく必要がある
						平成23年7月2日～7月3日									
農林部	菊子 正稔	森づくり推進課	森林整備第一班	千葉 崇	018-860-3383	ナラ枯れ対策事業	管内で急激に増加しているナラ枯れ被害の防止に向け、地域住民に対する防除の啓発や県外で行われている先進的な取組を研修する。	268,850	直営	1 防除啓発リーフレットを作成・配布 20,000部 2 先進地への視察調査を実施 ・山形県米沢市の事例研究 ・優良事例シンポジウムへの参加 東京都	県	森林組合、農林業従事者等	平成23年11月15日	・先進地視察調査で入手した情報は、防除主体である市町村に対しての指導に役立っている。 ・作成したリーフレットを用いて、座談会などで地域住民に対して防除の啓発を行っており、防除意識の向上に役立っている。	・根本的な防除である「林の若返り」を広めていく必要がある。
						平成23年11月～平成24年3月									
農林部	菊子 正稔	農業振興普及課	産地・技術普及班	小原 玲子	018-860-3412	ダリア産地拡大支援事業	ダリア産地拡大のため、ダリアの周年出荷に取り組んでいる先進地の視察調査を行うとともに、その視察調査内容に基づいた技術伝達セミナーを開催する。	276,405	直営	1 先進地への視察調査を実施 ・北海道北空知 ・2月 2 視察者による技術伝達セミナーを開催 ・3月	県	生産者、JA職員等	平成23年12月5日	・秋田より寒い北海道で周年栽培を行い、実績を上げていることを生産者等が認識することができた。 ・これまでの球根定植栽培から挿し芽苗定植へ転換する足がかりになった。	・生産効率の高い「刺し芽苗定植」の拡大と定着が課題である。次年度は課題解決試験ほを設置し、栽培技術の確立を図り、球根定植から刺し芽苗定植への普及を推進する。
						平成24年1月～平成24年2月									
農林部	菊子 正稔	森づくり推進課		泉山 吉明	018-860-3380	「木材の魅力を活かした」秋田駅周辺にぎわい創出事業	県産材の魅力を活かした秋田駅周辺のイメージアップや賑わいの手法を探るため、先進地から講師を招聘し研修会を開催する。	115,386	直営	1 先進事例研修会を開催 ・1月 ・参加者 80名	県	市町村、商業観光関係者、製材関係者等	平成23年12月19日	・林業、木材産業、観光、商業等の連携の必要性を参加者で認識することができた。 ・研修を契機に民間主体の「杉恋プロジェクト」が立ち上がったことから、研修から実践へ事業展開ができた。	・秋田駅周辺の商店街組合、JR等民間企業との連携を図り、民間主体の木を活かした賑わいづくりの輪を広げることが課題である。 ・「杉恋プロジェクト」の優秀作品の展示による、具体的な木の魅力を活かした賑わいづくりを継続していく必要がある。
						平成24年1月18日									